

「平島小・中学校の平島盆踊り（小躍り）伝承活動の取組」

1 学校名

十島村立平島小・中学校

2 学年・人数

小学1年生から中学3年生 計11人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成30年8月～9月 旧暦お盆の前 大庭（おおにわ）（地域広場）

(2) 発表の日時・場所

平成30年8月24日（金）～8月26日（日）

当日（発表の3日間）は寺を出発して、平重盛の曾孫である小松新少貳（しょうに）の墓，神社，民家など計6箇所を二列になって踊り歩く。

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

(1) 名称

平島盆踊り「小躍り」（たいらじまぼんおどり 「こおどり」）

(2) 由来

古くから伝わる踊りで，大きく分けて「宮鶴ジョ（ミヤジンジョ）」と「小躍り」の二つに分かれる。「宮鶴ジョ（ミヤジンジョ）」は，旧暦の7月7日から16日までの10日間踊り，歌は41番までである。平島の動植物を含めた自然，憧れる島外の風景，島内の若い男女や一年間の行事等，内容は多岐にわたっています。

(3) 構成等

「小躍り」は，盆踊りの最後の3日間踊る。この踊りに児童・生徒，学校職員も地域の方々と共に参加する。歌は6番まであり，手ぬぐいや扇子，ドッシン俵（だわら）を使ったゆっくりとした動きのこの踊りは，お墓参りが終わった後に行われるものである。

5 保存会や地域との連携の具体

地域の方々の支援の下，児童生徒を中心に，平島盆踊りは郷土芸能として代々受け継がれてきた。児童生徒数が減少してきている近年では，昔子どもだった大人の方々も「小躍り」に参加し，地域ぐるみで平島盆踊り「小躍り」を伝承している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

平島出身の児童がいないなど踊り自体を受け継ぐ受け皿がない。しかし，児童生徒だけでなく，大人も「小躍り」に参加するなどの協力を得られているため，学校も支援している。今後も継続して地域と連携して平島盆踊り「小躍り」を伝承していける体制がある。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



大庭で踊る「小躍り」



「小躍り」で使用するドッシン俵作り

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童生徒】

- ・地域の方々にたくさんの激励の声をかけていただき、励みになった。

【教職員】

- ・練習期間は短いですが、地域の方が直接教えてくださり、児童生徒も熱心に取り組んでいる。また、保護者の理解もありとても協力的である。
- ・ふるさとの郷土芸能である盆踊りを通して、地域の方々の思いや平島への愛着を子どもに育みたいという願いが伝わってくる。

【地域の方から】

- ・この平島の盆踊りを通して、児童・生徒は祖先を敬い、一年間無事に過ごせたことを感謝するという気持ちを実感してもらえたらよいと思う。